

令和 4 年度 墨田区立第三寺島幼稚園 経営報告書

令和 5 年 3 月 1 0 日

幼稚園目標	人間尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で、知性・感性に富み、人間性豊かな幼児を育成する。 ◎元氣によく遊ぶ子ども ○やさしい心をもった子ども ○進んで取り組み、最後までやりぬく子ども
目指す幼稚園像	子どもが主役の幼稚園
目指す園児像	◎元氣によく遊ぶ子ども ・意欲的に遊び、諸感覚で感じ取り、自分なりに表現することを楽しむ。 ・明るくのびのびと充実感を味わうよう、遊びの中で十分に体を動かす、 ・健康な生活リズム、食の習慣を身に付け、暑さ寒さに負けず進んで戸外で遊ぶ。 ・危険なことや災害について知り、安全に気を付けて行動する。 ○やさしい心をもった子ども ・友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。 ・自然や身近な動植物に親しみ、命あるものを大切に、いたわる気持ちをもつ。 ・高齢者や地域の方達、異年齢の子ども達に親しみをもつ。 ・様々な国の文化に触れ、親しみをもつ。 ○進んで取り組み、最後までやり抜く子ども ・遊びや行事等を通して、自分なりの目標をもってやり抜き、熱中する体験を積む。 ・試行錯誤や協同することを積み重ね、友だちや他の人との関わりを楽しみ達成感を味わわせる。 ・「なぜ、どうして」など、興味や好奇心をもち、少しずつ自分の世界を広げていく。
目指す教師像	教職員の基本姿勢 「子どもが主役の幼稚園」 ○愛情をもって子どもの思いや願いを受け止め、自立心や意欲を育てるよう、認め勇気づける指導を行う。 ○幼児理解に努め、一人一の興味関心を大切にしながら、日々の教育活動・環境づくりを振り返り、研究・研鑽に努める。 ○園の教育活動を保護者の地域の皆さまに進んで知らせ、共に児童の成長を喜びあう。幼稚園が親と子の温かい育ちの場となるよう、親身に接し相談や支援に努める。大人も相互に学び合い成長する。 ○保護者、地域、小中学校と連携し、豊かな関わりや具体的な体験の場を創り出す。

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
保育活動等	園は、幼児の主体的な活動を促す教育を実施しているか。	B	○今年度は、幼児の関心意欲を高める環境づくりや保育活動を創り出すことができた。次年度は、以下のことを行う。 ・幼児の発達の段階に応じた課題の設定をし、個別と一斉の指導のバランスをとりながら、保育活動を進める。 ・計画的に時に柔軟に社会の状況や園児の実態に合わせて、環境や課題を設定する。 ・行事のねらいや内容を再考工夫し、幼児の疑問やつぶやきをひろい、主体性が引き出されるよう指導の質を高めていく。	A	A
	園は、特別な支援を必要とする幼児に対しての、組織的な支援等を行っているか。	A	○今年度は全教職員の共通理解を基に、特別支援教育体制を整えることができた。また、巡回相談員を招きケース会議を行い、個に応じた支援法について学び実践した。次年度は、保護者との面談、関係機関との連携・就園・就学相談の充実 併設小学校特別支援教室との連携を行う。	A	A

様式 3

	園は、将来の自立に向けた保育活動・相談活動等に取り組んでいるか。	A	○次年度、幼保小の連携を進め、スタートカリキュラムに対応した、アプローチプログラムを進めていく。また、保護者の日常的な相談を進め、子育てへの不安に寄り添う。早い時期から、就学相談や進学への丁寧な対応に努める。 ○幼小の連携をさらに進め、小学校への関心・意欲・態度を育てるために、体験授業や給食試食会等を実施する。。	A	A
	園は、教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組等を行っているか。	B	○今年度は園内研究・区幼研などで、具体的な保育実践を通して研修研究を進めることができた。今後更にOJTや園内研修を通し教師の指導力の向上を組織的に図る。特に若手の育成のため、経験者とチームになって実践する。また管理職からの指導を実践に活かす。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等 遊びの中で気づきや疑問が深まっていく過程を大事にしながら、教育活動を行っている。				

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	園は、問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等を行っているか。	B	○これまで教職員は幼児の良さに目を向け、勇気づける対応に徹してきた。今後は、園児には友だちの良さに目を向けさせると同時に、園児の不安や不満を傾聴し、支えていく。	A	A
	園は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	A	○これまで園だよりホームページを活用し「早寝、早起き、朝ご飯」の施行を進めてきた。次年度以降は、これまで以上に元気なあいさつができるよう、教師自らがお手本となり実践する。さらに、学級に人数が少なくなっても、集団で行う活動の価値を見出し、ルールやマナー、我慢を身に付けさせる。また、コロナ禍で新たな生活様式になっても、近隣施設との連携や、小中学校等の豊かに関わるようにする。そして本物から学ぶ教育を更に実践し、命の尊さや大切さを、飼育動物や植物栽培を通じ実感できるようにする。	A	A
	園は、危機回避能力の基礎の育成や子供の安全を確保するための取組等を行っているか。	B	○今年度は不審者訓練等、小学校と連携して合同で行うことができた。次年度も全ての訓練を小学校と一緒にいき、よりリアルな訓練にしていく。	A	A
	園は、幼児や保護者からの意見や要望への対応等を行っているか。	B	○写真販売等の体制が変わり、今まで以上に保護者の会との連携が求められる年となった。次年度以降も保護者の声に耳を傾け、連携した幼稚園運営になるようにする。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	園と家庭の協力の中で、子供が身に付けなければいけないルールやマナー知ることが大切だと思う。今後も協力して進めて欲しい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
園の管理運営	園は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	B	○園の教育計画をもとに、主任が中心となり、担任が主体的に進めることができた。次年度は、前例ありきではなく、子どもにとっての最善を考えて行っていく。	A	A
	園は、幼児の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。	B	○「元気よく遊ぶ子ども」を重点にし、本物から学ぶ活動を中心に行った。次年度は、さらに子どもの自発的な活動や、表現する喜びや意欲を育てていけるよう努める。	A	A
	園には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えられているか。	B	○専門家を招き、豊かな活動ができた。次年度以降も、本物から学ぶ教育を大切に、教材の開発や適切な配置等、整備する。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	コロナ禍で幼稚園に行くことが出来なかった。園児の入園者数が減少していることが気になる。また、副園長先生が不在なことが気になる。			

様式 3

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域	園は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	C	○今年度は昨年度まで出来ていたスライドショーをすることが出来なかった。次年度以降はタイムリーに子どもの様子を伝えることができるスライドショーやホームページの充実を図る。	B	A
	園は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	B	○土曜ふれあい保育など、保護者が参加して一緒に行う活動ができた。今後は、小学校との連携を更に深め、音楽や図工の授業体験や、給食体験を充実させていく。	A	A
連携	学校関係者評価委員会の意見等	今年度は副園長が不在のため、昨年度行えていたスライドショーが出来なかった。園の生活を保護者が共有できるように努めて欲しい。			

2 令和4年度学校評価のまとめ

コロナ禍であっても、今できる最善の方法を考え、子供が主役の幼稚園を目指し行ってきた。今年度は、年長年少の交流も行うことができ、コロナ前に幼稚園に戻りつつある。互いにコミュニケーションを図りながら、それぞれの園児がもつ力を高められるよう、次年度以降も努めてきたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立第三寺島幼稚園 園長 福井 みどり

公印